

指導者からの統制的行動と学生アスリートのウェルビーイングの関係性

1240530 村石穰太

指導教員 前田和範

研究背景

近年、世界的にウェルビーイングへの関心が高まっている一方で、部活動中の指導者による学生アスリートへの統制的行動が問題視されている。先行研究では、指導者からの統制的行動が学生アスリートの精神面にネガティブな影響を与えることが明らかになっている。本研究では、このような指導者の統制的行動と学生アスリートのウェルビーイングの関係性を明らかにする。

研究目的

「指導者からの統制的行動は学生アスリートのウェルビーイングにネガティブな影響を与える」という仮説を立て、指導者の統制的行動が学生アスリートのウェルビーイングに及ぼす影響を明らかにし、統制的行動の必要性を問い直すことが本研究の目的である。

調査・分析方法

中学時代に運動部に所属していた大学生 (n=108) に対するアンケート調査を実施した。主な調査項目は、中学時代の指導者の指導方法や被体罰経験の有無、中学時代のウェルビーイング、さらに組織の成果に貢献する行動を表す「組織市民行動 (OCB)」に関するものであり、指導者からの被体罰経験や指導方法が学生アスリートのウェルビーイングに与える影響を分析した。

分析結果

ウェルビーイングから OCB への影響について、被統制的行動経験のない群では監督やチームメイトとの関係性に関する「社会的ウェルビーイング」からの影響が強く、ある群ではアスリートとしての幸せに関する「心理的ウェルビーイング」からの影響が強いことが明らかになった。また、全体を通じて被統制的行動経験のない群の方が、快樂的幸福を表す「ヘドニックウェルビーイング」が有意に高かった。さらに、組織市民行動の「援助行動」と「市民の美德」の項目では、有意差は見られないものの、被統制的行動経験のない群よりも、ある群の方が平均の値が高いという結果が得られた。

考察・結論

本研究の結果から、指導者からの統制的行動は学生アスリートのウェルビーイングにネガティブな影響を与えることが明らかになった。部活動中の指導において、指導者からの統制的行動の必要性はないと結論付ける。